



写真左より、宮川外来課長、東方外来課長、筆者、谷口臨床支援課長、藤田入院課長

平成から令和に変わり心機一転、医療事務部の課の再編成に着手し、昨年11月より新体制となりました。業務の効率性を考える上で、事務員のスキルアップも不可欠ですが、スリム化も必要と考え、6つに分かれていた課を3課に集約しました(右下図参照)。外来課だから会計のことは知らない分らないでは、業務が滞り患者さんに迷惑と混乱が生じます。患者さんにとっては、所属課は関係なく事務員は事務員なのです。

また、課の再編と同時に課長の異動も実施しました。課長自身、経験したことがない業務に戸惑いがあったかもしれませんが、新しい外からの眼を持って内部改革を目指してまいります。ルーティンの業務を変えることは誰もが不安になると思

医療事務部再編への思い

医療事務部 部長 玉野 祐仁



いますが、ある程度外から強い力を加えなければ変化もなく、改善もみられないのではないのでしょうか。

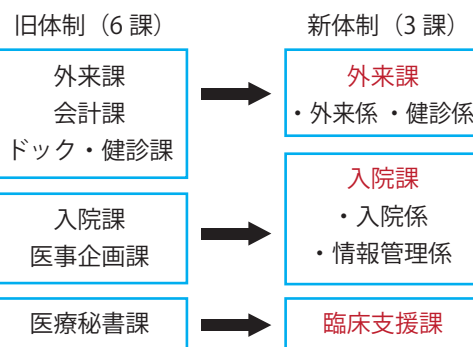
厚生労働省は全国の公立病院や日赤などの公的病院のうち、診療実績が乏しいなどと判断した424病院に統廃合を含めた再編の検討を求めることを決め、病院名を公表しました。過剰とされる病床数の削減を踏まえた議論を促すことを狙った異例の措置で、強制力はありませんが、対象病院に今年の9月までに具体的な結論を示すように要請しています。

公立・公的病院の再編は都道府県ごとにまとめた「地域医療構想」の一環で、いつ民間病院にも統廃合の波が押し寄せてくるか分からない状況となりつつあります。当院も松山圏域の急性期病院として、いかに地域住民のニーズに対応していくかが今後の課題です。病院が生き残るためには松山市民病院単体だけでなく、松山圏域の急性期・回復期・慢

性期病院が協力しあいながら地域医療を支えていかなければなりません。

ここ数年、慢性的な人員不足が続いており、春の新卒採用も検討しているなか、時代の流れで働き方改革が叫ばれています。有給休暇消化のすすめ、時間外労働の削減等、労働環境の変化も求められるようになりました。個々のスキルアップ・業務の効率化を念頭に置きながら、更なる努力を重ねてまいります。

医療事務部の課の再編成



リハビリ step by step Vol. 3

「愛媛マラソン」ーメディカルサポートの立場からの注意点ー

リハビリテーション室 理学療法士 森山 翔太



近年、健康志向の高まりから一般市民参加型のマラソン大会が各地で開催されており、参加者も年々増加傾向にあります。2月9日(日)には、1万人が走る第58回愛媛マラソンが開催されます。私は毎年、医療・救護スタッフの一員として愛媛マラソンに参加し、メディカルサポートを行っています。各救護所に理学療法士が配置され、ランナーの訴える症状に対して、さまざまな処置を選択・実施しています。

そこで今回は、よく見られるランニング障害を紹介します。

① 腸脛靭帯炎

【病態】膝の屈伸を繰り返すことで、炎症を起こす。

【原因】オーバーユーズ、O脚、回内足(膝関節内旋)、股関節外転筋力低下、堅い地面や傾斜、下り坂、クッション性の悪い靴、片減りした靴底



【症状】ランニング中の膝の外側が痛む

【処置】テーピング、ストレッチ(大腿筋膜張筋、殿筋群)

② シンスプリント

【病態】走行距離の延長や堅い地面を走りすぎた時に、前・後脛骨筋の収縮により骨膜が炎症を起こす。初心者病とも呼ばれている。

【原因】過剰な練習、堅い地面の走行、クッション性の悪いシューズ、回内足、扁平足

【症状】脛骨遠位1/3・脛骨後内側中心にランニング中に痛み、安静時は軽快

【処置】テーピング、ストレッチ(長趾屈筋、前・後脛骨筋、下腿三頭筋)



③ 足底腱膜炎

【病態】着地動作の衝撃を緩和・吸収する足底腱膜が付着する部位に、反復した牽

引と圧迫により炎症が起こる。

【原因】オーバーユーズ、ハイアーチ、堅い路面、O脚、足関節背屈制限

【症状】踵部痛、踵骨付着部やや内側の疼痛(特徴:起床時の第一歩目の強い痛み)

【処置】テーピング、ストレッチ(足底筋、下腿三頭筋)



冬はランニングで筋肉が使われることに加え、体温を一定に保つためにカロリーが消費されるので、脂肪燃焼効果が高いと言われています。運動不足になりがちなこの季節、正しい知識を身に付け、怪我に注意しながらランニングに励んでいただければ幸いです。

～愛媛マラソンに参加される方へ～
途中、少しでも異変を感じた時は、無理をせず救護所をご利用ください。